

豊潤の里 だより

同意書は有効に成立、栗本HDの見解 ?!

～ 組合員は知らなかった ～

早いもので、産廃処分場の建設反対に向けての取組みも5年が経過しようとしています。その間、より多くの皆様に関心を持って頂きたく、木谷から安芸津町内へと広報活動を展開してまいりました。まずは読んでくださっている皆様に感謝申し上げます。

さて今回は、本広報紙「豊潤の里」2月号に掲載した「同意書」についてのつづきを紹介いたします。前号で安芸津漁業協同組合が産廃処理業者と交わした建設「同意書」が無効である旨の通知書を代理人弁護士から送付したことを報告しました。山中組合長も「これで終わった」と安堵されていたいました。

ところが、栗本ホールディングス(以下栗本HD)からの通知で、同意書は「有効」との見解が示されました。その要旨は、次のとおりです。

安芸津漁業協同組合(以下、貴組合)と有限会社晴海コーポレーションと弊社(栗本HD)との間の「同意書」に関しましては、当時の貴組合の理事長を通じて貴組合の弊社事業の理解を得て締結したものです。そのため、弊社としては、当時有効に成立したと考えております。

栗本HDの捉え方は、当時の安芸津漁協理事長(組合長)を通して漁協全体の総意が得られたとするものです。しかしこの栗本HDの捉え方には疑念を抱きます。確かに漁協トップの理事長が署名・捺印することの重みはありますが、それが漁協全体の理解を得たことになるのでしょうか。この同意書が明るみに出るまでの間、何ら説明もされず組合員が知らなかったことは重大で、総会で処分場建設反対の決議をした後も、なんら話し合いの場にだされていません。皆さん、全く不可思議なことだと思いませんか。

さらにはおかしな点は、栗本HDは代表取締役の職印が座った同意書について、漁協との交渉事は晴海コーポレーションに「業務委託」しているから知らない、と継続して答弁しています。説明責任を果たしているとは到底考えられません。このように同意書を巡る件でも、栗本HDの処分場建設に向けたやり方は、多くの住民にとって理解しがたいものです。

県内でも特に美味しいと評判の三津湾のカキは、今が旬です。漁協の若者が中心となり、先日木谷で牡蠣フェスタを開催し、多くの人で賑わっていました。安芸津には「産業廃棄物」はいりません。多くの豊かな自然の恵みを次世代に残していきたいものです。今後とも継続して、本紙を読んでいただき、ご意見を頂けたら幸いです。



【桜咲く正福寺山から三津湾を望む】

木谷地域の歴史遺産・文化の継承活動を通じたまちづくり

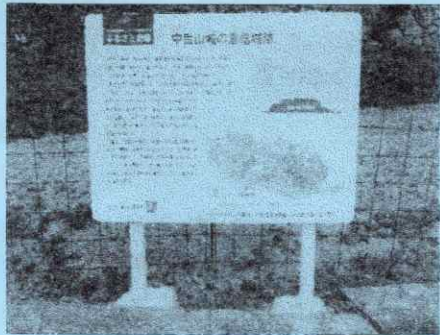
「史跡説明板」を4か所に設置

木谷の歴史を知る上で重要な場所に、そのいわれなどを案内する説明板が設置されました。これは木谷の歴史に関心がある有志が勉強会を開き、その中で表示内容などをまとめたものです。

説明板にはQRコードが付いていて、さらに詳しい情報が読み取れるようにしてあります。



木谷氏一族・家臣の古墓群(慶寿院)



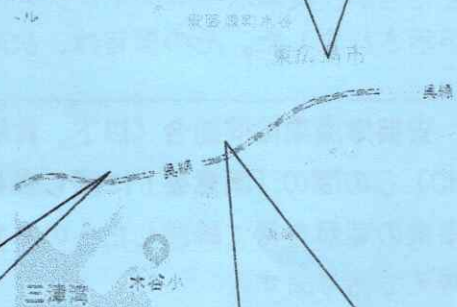
中世山城の重信城跡(三畝上)



宮沖新開の変遷(重松神社)



廻船業・元屋の屋敷跡(下の谷2区)



東広島市市民協働のまちづくり活動応援補助金事業

木谷の歴史



(改訂・増補版)

読本「木谷の歴史」差し上げます

- ・木谷の歴史にまつわる写真や資料を掲載
- ・読めば木谷がますます好きになります

著者：木谷自治協議会・元会長 植野 洋文 氏

ご希望の方は木谷地域センターにお問い合わせください

☎0846-45-0105

寄稿

竹原小早川氏の供養塔か！？

～木谷地域最古・最大級の「妙専寺宝篋印塔（ほうきょういんとう）」～

妙専寺宝篋印塔保存会 谷村 秀格

木谷地域では、自治協による重信城跡（郷）など旧跡4か所への「史跡説明板」の設置や、それらを巡る「史跡めぐりウォーキング」のイベントなどで盛り上がっています。

木谷には、上記旧跡の他にも、ご承知おきいただきたい貴重な歴史資料があります。その一つが郷地区の浄土真宗妙専寺の境内にある「宝篋印塔の笠（写真下）」です。

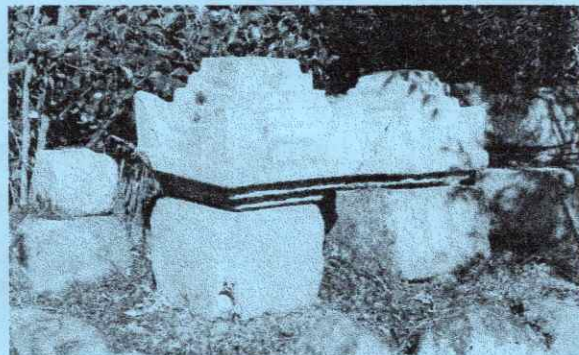
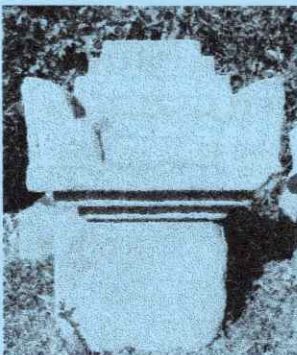
「妙専寺宝篋印塔」は、昭和初期、現在の山門を再建する際に出土したもので、妙専寺の前身である真言宗光城寺（1351年創建）に関係するものです。

宝篋印塔は、鎌倉中期以降に盛んに造立された石塔（墓塔・供養塔）で、近辺の古い時代のものは、主に中世の国人領主であった竹原小早川氏やその一族に関係するものとなります。

木谷地域の宝篋印塔としては他に、このたび史跡説明板が設置された郷の慶寿院墓地にある木谷氏一族（中世木谷地域を支配した）の墓塔などがありますが、「妙専寺宝篋印塔」はその最古の年代を約100年もさかのぼるものとも推定され、石質も上回ります。

専修大学文学部兼任講師（当時）の館鼻誠先生は、「妙専寺宝篋印塔」のひとつについて、次のように述べられ、その歴史的価値を高く評価されています（館鼻誠『中世武士団安芸小早川領域における石塔の基礎的研究』2009年より主旨を要約抜粋して記載）。

- 木谷地域に残る宝篋印塔の中で、最古・最大級のものである。
※14世紀後半の南北朝時代にまでさかのぼるもの。
- 竹原小早川家6代当主実義（さねよし）の供養塔とも推定される。
※実義は1360年三津（木谷・三津・風早）地頭職となるが1364年西条合戦で討死する。
- 木谷の歴史を語る上で第一級の歴史資料であり、後世に残すべき貴重な石塔となる。



相輪
笠
塔身
基礎
基壇

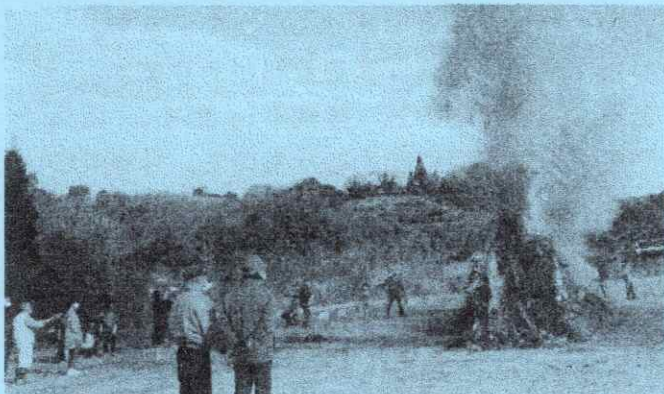
※【写真左】竹原小早川家6代当主実義の供養塔とも推定される木谷地域最古・最大級の宝篋印塔の笠。

これにより、中世木谷の風景が鮮明に描けるようになってくると同時に、尾首城（木谷氏の屋敷）に隣接していた光城寺（妙専寺）の由緒、その重要性が強調されてきます。

地域の皆様におかれましては、この機会に、地域第一級の歴史資料である「妙専寺宝篋印塔」の存在を、是非ご承知おきいただければ幸いです。

次回は「妙専寺宝篋印塔」と中世木谷の風景についてお話しさせて頂ければと思います。

3年ぶり 赤崎の神明まつり

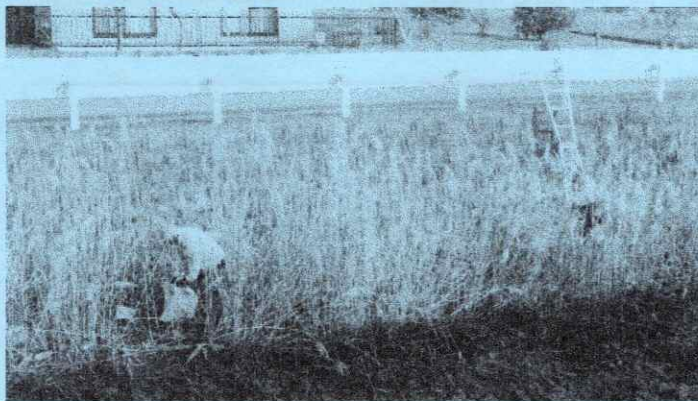


コロナ禍で昨年、一昨年は中止になった神明まつり。今年は3地区のうち赤崎地区だけ1月29日に実施されました。

飲食を伴わない開催となりましたが、子どもたちが周辺を走り回り、大人たちは談笑し、地域行事の再開を喜んでおられました。やはり地域行事は重要な集いの場です。

部会活動紹介

環境衛生部会



3/11 木谷郷川がきれいになりました

川に茂っていた草も一掃するような平成30年と令和3年の豪雨。その後、川は元の状態に戻りつつありますが、ゴミも目立つようになりました。そこで有志4名が河口から上流へ約1kmを歩いて拾い集めました。河口には草に絡まった漂着物が多く、市道沿いの流域では投棄された空缶や空瓶が数多くありました。 <安芸津保全会 下之谷集落>

木谷の人口（住民基本台帳）	世帯数	人口（男女計）	男	女
令和5年2月末現在	686	1450	706	744
令和4年2月末との比較	-5	-41	-23	-18